広報
さめがわ

1972
4月号
No.221
編集兼発行
鮫川村総務課
塙町・佐藤印刷所



村の職員でさくらの植樹

壇の岡に統合中学校が完成したことにともない、その周辺を花でかざろうと、初めは村の議員団がさくらの植樹を行いましたが、その後毎年村出身の有志から苗木の寄贈が続いております。

今年は赤坂東野出身の富士リース株式会社社長矢内嘉成さんから さくら苗木300本の寄贈があり、村では4月17日職員一同で、これを道路べりの空地に植付けました。

⊙毎月1日は交通事故ゼロの日

⊙農繁期に入ります　火の元・戸締りに十分注意して下さい。

⊙第3日曜日は「家庭の日」です

今月の人口

（4月1日現在）

人口	6,358（−125）
男	3,218（−57）
女	3,140（−68）
世帯	1,190（−7）

農繁期の火災予防
火の始末を完全に

強い南風が吹くと、急に気温が上昇して火災をおこしやすく、空気が乾燥して小さなボヤでも大火になります。

その日、その日を油断なくみんなで注意し、火災の防止につとめましょう。

これからは農繁期のため、朝早くから夕方まで家を留守にしますが、そのため火災が多く発見がおくれ、全焼又は大火災になる危険があります。

「子どもの火あそび」取灰、マッチの置場所、電気やガスの始末などに注意し、マッチは子どもの手のとどかない所へ置き、又山野の焚火、モミガラ焼きなどには十分注意して下さい。

火の始末、ほく見て、母見て
火の用心

消防庁舎を見学される方は、毎日午前八時から午後四時まで、見学の便に供しています。（但し五月十日頃まで）お気軽にお立寄り下さい

（白河消防署鮫川出張所）

お知らせ (12)

昭和四七年度予算に盛られた村の諸施策は、今月からそれぞれ実施の段階に入りました。

本年度予算は、住民福祉を最重点にとりあげており、四月から実施されたものの中には、七五歳以上高令者の医療費の無料化などがあります。

この施策で国民健康保険、社会保険合せて一八八名のかたがたが該当することになりました。

国民健康保険の給付改善では乳児の一〇割給付、助産費の一人一万円は継続され葬祭費は一件二、〇〇〇円から四、〇〇〇円に育児手当も一、八〇〇円から三〇〇〇円に引上げられました。

今年から最高年令者に贈られる村の敬老年金制度も創設され老人クラブ助成も若干の増額があり、待望の「保養施設」は白河広域市町村圏の事業として、わが村に誘致し、今明年度の継続事業で完成する計画となりました

保育所は、職員一名を増員して保育の充実を図ることにし、季節保育所設置の計画もあります。

多年親しまれてきた鮫川診療所は、建物の老朽化に加えて交通騒音の影響も多いので、この際適当な場所に移転新築を計画しており健康センターの施設の改善についても意を用いてあります。

なお、今後行われるべき施設としては、主な集落の児童館建設についての調査設計などが予定されています。

明るく住みよい郷土をつくり、住民が真に生きがいのある生活をおくれるためには、福祉は個人的な面だけに止まらず、住民の生活圏がたえず改善されて、快適な共同生活が保障されなければなりません。

通説による第一次生活圏は、わが村の場合、小学校のある現在の大字程度の集落圏とみるのが妥当であり、中央に役場のある現在の村の圏域が第二次生活圏とみてよいと思います。

これらの生活圏は、住民の生活に必須な施設と機構をもち、自らひとつのまとまりと、相互の連携をもちながら発展してゆくものであります。

この生活圏を整備する中で、わが村にとって最も重要なことは、道路交通施策であります。

今年は、山村振興法、過疎地域対策緊急措置法、辺地整備、広域市町村圏整備など、多面的な行財政上の利点を生かし村の自己負担を軽減しながら対前年比二〇%以上の村道等改良事業を行い、また国県道の改良を推進する予定であります。

なお環境整備のための生活改善センターの建設、広域清掃事業の拡大、簡易水道布設などの事業があり、この年度もまた皆様の深いご理解とご協力をおねがいする次第であります。

住民福祉と生活圏

村長　石田卯子八

!心配！　心配ごと相談

日常生活の心配ごと、悩みごと家庭の問題、土地の問題、交通事故の問題など何でもご相談下さい

村では、毎月一〇日、二〇日、三〇日（日曜のときは翌日）を相談日と定め、村公民館「談話室」でご相談に応じております。

・相談には手続はいりません。
・直接ご自分でお出下さい。

人事

◉新採用（四月一日付）
遠藤　艶子（学校給食センター栄養士）
鈴木　市悠（学校給食センター運転手）

◉異動（四月一日付）
・（村長部局）
企画統計係長　鈴木　一（診療所事務長）
税政係長　高坂　幸男（農政対策係長）
農政対策係長　関根　武捷（企画統計係長）
福祉年金係長（昇格）斉藤　実（税政係）
診療所事務長　添田　剛弘（診療所事務長事務取扱）
税政係　国井嘉康（福祉年金係）
税政係　金沢省道（農政対策係）
国保衛生係　藤田　洋美（教育委員会）
農政対策係　山本勝夫（税政係）
保育所勤務　鈴木順子（土木係）
・（教育委員会）
学校教育課勤務
社会教育課事務兼務　鈴木俊之（社会教育課）
・（議会）
議会書記兼務　斉藤美津江（総務課文書広報係）

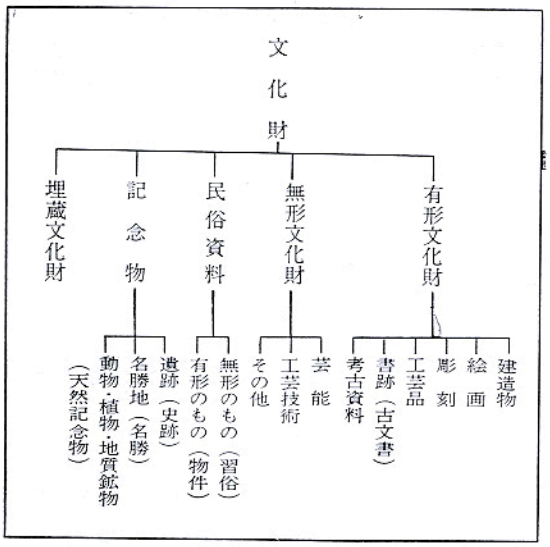
◉嘱託（四月一日より一年間）
緑川　リウ（ねたきり老人家庭奉仕員）

◎退職（三月三十一日付）
（税政係長）窪木義信（依願退職）
（栄養士）大毛利ヒロ子（依願退職）

文化財と文化財調査委員

わたしたちの住んでいる鮫川村には郷土の歴史や文化を裏づけるすぐれた文化財が数多く保存されております。わたしたちが遠い祖先の貴重な文化遺産を理解することは、とりもなおさず郷土を愛することにほかなりません。

文化財は、とかくすると一部の方たちのものと考へられがちでしたが、近年広く村民に理解され、自らの手で保護しようとする動きが見られることは、まことによろこばしいことと思います。



村においては昭和四十六年十二月鮫川村文化財保護条例を制定、同時に鮫川村文化財調査委員設置に関する条例も定められましたので、教育委員会ではこの条例にもとづき次の方々を委嘱しました。

鮫川村文化財調査委員

国島義広（委員長）高坂　尹（副委員長）宗田幸雄、関根一好　生方利夫

今後は、これ等文化財調査委員の方たちにより、村内の文化財の調査にあたり、教育委員会の諮問に答え、または意見を具申し、その保存と活用に努力して参ります。

村内にある文化的所産や考古資料で、わが村にとって歴史上、芸術上又は学術上価値の高いものがあれば、その重要度合によりそれぞれ国、県、村の文化財に指定し保護の対象となりますので、文化財調査委員又は公民館に御一報下さるようご協力方お願いします。

又これ等価値の高いものはその都度広報誌等に掲載して、広く郷土の歴史、文化、自然を正しく理解してもらうことを願い、又これを通して身近な郷土の文化をはだで感じ、目でたしかめ、心豊かな人間形成の一助に努力してゆきたいと思います。

特に村民に知つて頂きたいことは村文化財保護条例に準拠し、第三十八条及び第三十九条では罰則を規定していることです村指定文化財を損壊し、き棄し又は隠匿した者、又現状を変更し、その保存に影響を及ぼす行為をしてこれを滅失し、き損し又は衰亡するに至らしめた者は一万円以下の罰金又は科料に処することになつておりますので、今後は十分ご注意を願いたいと思います。最後に参考までに文化財とは何んなものをいうか、わかりやすくまとめると上欄の図ようになります。

教育も環境整備から

戸草分校PTAで奉仕作業

鮫川小学校戸草分校（主任矢内文雄）は、児童数も年々減少して今年は一～二年生が八名、三～四年生が六名の計十四名で、主任を含め二名の先生が復式教育をしております。

給食のときなどは四年生が世話をして、一つの教室に集り、たのしい食事をしています。

しかし掃除などは人数も少なく低学年のため思うようにいかないので校舎周辺の整備にはあまり手がとゞきません。それで同分校PTA（会長松崎照義）では、せめて校庭などを整備し教育環境をよくしようとこのほど全員で一日奉仕作業を行いました。

戸草部落は五十二戸でPTAには全戸加入しており、奉仕作業も一〇〇%の出席率で見違えるほど立派になりました。

また鮫川運送店から四十本近い自動車のタイヤが寄附され、児童の運動施設に使用され、校庭には防火用水池を兼ねた観察池も完成し、池の中央からは飲用水にもなるきれいな水が勢よく噴出しています。

主任の矢内先生はへき地教育に熱心で今年の四月に本校から分校に勤務替えしたばかりですが、部落の方々から非常に感謝されています。



―奉仕作業にけんめいな戸草分校PTA―

◉農業委員選任（四月十日付）

星　弥義

（農業共済組合推せん委員前田栄美辞任のため後任として）

おめでた

三月

中野町　赤坂　克弥　父　基

田尻　蛭田　信二　〃　昌一

岫長　北条　直美　〃　泰男

鍬木田　渡辺由香理　〃　昭美

大根屋敷佐久間智春　〃　栄一

石ノ花　斉藤　弘樹　〃　弘和

岩野草　根本　清勝　〃　栄一

追木　水野恵美子　〃　正

おくやみ

三月

中　鈴木　清　56才　世帯主

道少田　白坂　琢子　28才　数馬

浅屋敷　高坂　ミネ　88才　精一

福原　蛭田　兼助　86才　道郎

押野　水戸　クニ　68才　啓

□□□□緑の羽根□

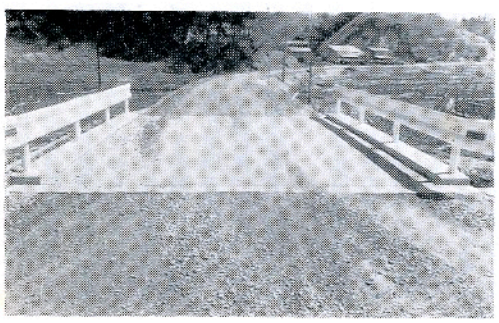
住みよい緑の生活環境を作るため「国土緑化運動」を展開中です緑化に対する理解と認識を高めるため、緑の羽根募金が行われていますのでご協力をお願いします。

募金は行政区、学校、役場庁員クラブで行っていますが、募金額の六五％は学校その他公共施設の植樹、花壇の整備、その他緑化事業に使われます。三五％は、郡、県の緑化事業推進の費用に充てられます。

去る四月十一日には、県緑化推進委員会から、グリーンガール五名が村を訪れ、ヶヤキ（県の木）その他四種類の苗木を、村へ交付されました。



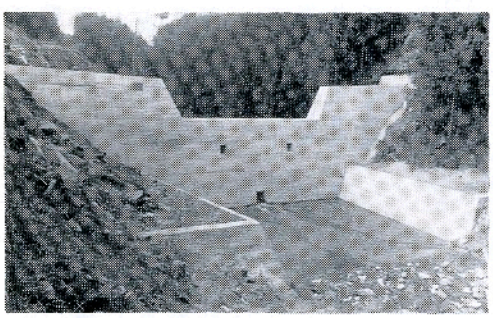
役場前で、グリーンガールから県の苗木を石田村長に手渡されました。



田中橋完成

西山地内田中橋は、山村振興道路改良事業でコンクリート永久橋に架替えられ、このほど立派に完成しました。

（工事費3,600,000円、延長30ｍ、巾員5.0ｍ）



落合川砂防ダム、（摺合地内）
工事費18,900,000円　延長48.5ｍ　高さ8.5ｍ

老人クラブ県南大会

小松幸一

三月三十日、福島県老人クラブ県南地区大会と指導者研修会が郡山市商工会館で開かれたので出席した。村からは七名出席した。開会時間は午前十時正確に開会した。会長坪井栄作氏九三才というが大元気なのにおどろいた。左目失明とか原稿なしで大演説、年令でも県の会長に「ふさわしい」と思つた。

祝辞大和田郡山市福祉事務所長秀瀬郡山市長の代理、祝電栗山、天野衆議院議員山下、鈴木参議院議員、その他の代議士はどうしただろうと思つた。

講演、これからの老人クラブ活動はどうあるべきか。講師老荘の友編集長木村健一先生アノイという薬草が体力増進に効ある。健康でしあわせな老後生活を送るには一、ものごとをつきつめる　二、なんでも話せる友達をつくる三、前向きに考えるということで同感だつた。

正午中食弁当「寿し」が出た。

零時三十分再会。意見発表一須賀川二、玉川村三、中野長生会々長水野芳光。鮫川村は老人福祉に他市町村にさきがけて大巾な助成をしてくれていることを大力説した

宣言決議を行い満場一致で可決万才を三唱して午後二時閉会した

とうけい

五月一日現在で実施する商業統計調査は、全国の商店を対象に商店数、従業者数、商品販売額、商品手持額等を調査して業種別、規模別、地域別には握しようとするものです。

この調査は二年ごとに実施され本村では石井利雄（西野、西山、中野の一部）、宗田貞治（東石、中野の一部）、松本好雄（富田、渡瀬、青生野）三名の調査員の方が各商店を訪問します。

調査票は統計以外の目的たとえば徴税などに使用されることは絶対にありませんし、調査に従事するものが知り得た秘密をもらすことはありません。

納税だより

◉新しい組長さんにお願い◉

四月の納税は、軽自動車税と国民健康保険税の第一期分です。

納税については、新組長さんには今後いろいろとお世話になります。

本村は毎年十二月で各種村税全村完納の実績をあげております。これは組長さん方の理解ある御協力があればこそ達成できることで深く感謝にたえません。

今年も十二月には全村完納が達成できますよう、よろしく御協力のほどお願いします。

・軽自動車税について

毎年四月一日現在で軽自動車を所有している方は、軽自動車税を四月に全額納めることになつています。ただし年度途中で一二六cc以上の軽自動車を取得したときは月割課税又は廃車したときは既に納めた税金を月割計算により還付されます。

・国民健康保険税について

医療費の増高と、保険利用者の増加に伴い、年々保険税も多くなつております。

保険税算定の基礎となる昭和四七年度村民税の所得額が確定しないため、第一期分及び第二期分については、前年度税額の五分の二の額を、一期と二期に分け、暫定賦課として納めていただくわけであります。

簡易水道 ①

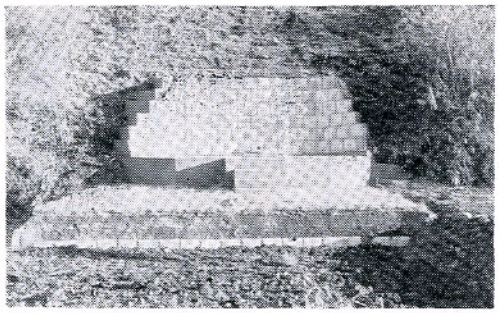
私達の生活に水はなくてはならないものできれいな水をいつでも簡単に使えるようにしたいという水を求める声は、時代に即応して新しい形で要求されてきています上水道や簡易水道は清浄で豊富な水を、低廉な価格で台所へ供給し安心して飲める水として全国的に普及され歓迎されています。

本村でも地域の要望により昨年度から簡易水道布設工事を進めてきました。昨年度は水源地の取水施設と配水池の施設工事を行いました。

いよいよ今年度は配水管の布設と申込家庭への給水装置工事を行い、年内には台所へ送水出来るよう事業の進捗を図っております。

未だ地域内で加入申し込みをしていない方で希望のある方は水道係へ申し込んで下さい。

近いうちに申し込みされた家庭の給水装置工事の設計にお伺いします。



鍬木田地内に出来た簡易水道取水施設（湧水量12時間544ｔ1秒間6.3ℓ）

（新工場進出）

広畑に進出した北陽電機株式会社の下請工場に続いて、今度は大字渡瀬字中野町に池尻電器株式会社の下請工場（責任者棚倉町菊地満）が鮫川工場として操業を始めました。

現在二〇名の地元の婦人が働いています。工員の平均年令は三〇才でカーステレオ、カセットの部品を製造していますが、近いうちに三〇名に増員する計画ということです。



新しい改良推進員

農業経営の改善普及と、農家生活改善のため、県に農業、生活改良推進員制度がありますが、このほど委嘱替えになり、次の方々が県知事から委嘱されました。（任期は四七年四月一日より四九年三月三一日まで）

◉農業改良推進員

西　野　高坂一郎　緑川多気志
　　須藤　啓　増子久美
　　舟木克臣
西　山　関根昭八　関根啓雄
　　坂本忠雄　我妻光男
　　生田目義也
中　野　山本勝治　鈴木市治
　　湯座吉夫
東　石　鈴木　武　諸橋覚知
　　鈴木作衛　関根初吉
　　中川西寅夫　中川西吉正
富　田　青戸孝夫　国島義麿
　　石井一栄
渡　瀬　小松幸次　蛭田吉郎
　　藤田一朗　赤坂貞雄
青生野　石塚　寛　土手内隆男
　　長久保光市

◉生活改良推進員

西　野　高坂クニ　須藤昭子
　　藤田ミツ　白坂ナオ
　　北条キミ子
西　山　関根　貞　関根イツ
　　水野久子　阿久津ナツ
　　斉藤シツエ
中　野　湯座ミキ　大河内キク
　　金沢英子　円谷ツヤ子
東　石　森　芳子　鈴木テル子
　　渡辺房子　蛭田トク
　　中川西千恵子
富　田　青戸君江　松本セツ
　　矢吹マツヨ
渡　瀬　芳賀貞子　芳賀ヤエ子
　　星フミ子　遠藤セツ
青生野　星フクノ　森田カノイ
　　石井シン



★みんなの力で
★交通事故を
★なくしましょう!!

「こどもを見たら赤信号」と思って慎重な運転を！

◎五月一日から、自動二輪車やバイクを運転するときは、必ずヘルメットを着用しなければなりません。（但し速度制限三〇㎞以下の道路及び最高速度三〇㎞の第一種のバイクは除かれます）

昭和46年1月～12月までの交通事故発生状況

（棚倉警察署管内）

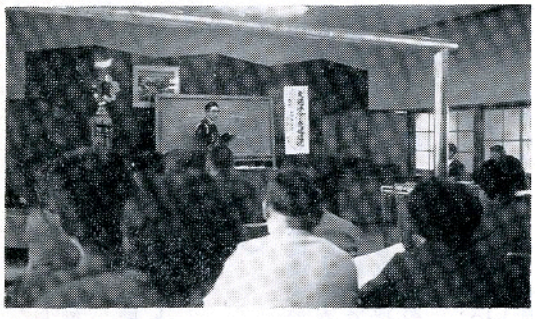
町村別	棚倉町				塙町				矢祭町			鮫川村	
地区別	棚倉	近津	社川	高野	塙	笹原	八幡	植田	東館	石井	矢祭	中野	西野
件数	54	25	14	7	41	13	3	3	18	20	8	8	4
小計	100（45.5%）				60（27.7%）				46（21.2%）			12(5.6%)	

公民館学級生募集

昭和四七年度に鮫川村公民館が実施する学級生を次のとおり募集しています。なお申し込み〆切は五月十五日です。希望者は電話（四十二番）又は直接公民館にお出のうえ申し込んでください。

学級	応募資格	実施期間	内容
勤労青年学園	中学校卒業以上の学歴を有し村内に居住する25才までの青年男女	46年4月～47年3月	村の後継者育成を目的として月に2回、農業、地域開発社会常識体育等を学習する
社会学級	村内に居住する60才以上の成人男女		老後を楽しく送るために、月に1回健康管理、趣味等を学習する。

交通安全を願い研修会



交通事情の変化にともない交通法令もたびたび改正されます。

この改正法令を正しく理解し、又交通道徳を身につけ、運転者も歩行者も安全な交通をしようと、村職員の研修会が去る四月十五日役場会議室で行われました

棚倉警察署の石井一巡査を講師として五十名程の職員が二時間半にわたり受講しました。

最近は自家車による通勤者も増し、又スクールバス、給食車等公用車も増加しており、熱心な質疑があり終始熱のこもつた研修会でした。

消防協会東白川支部で役員改選

去る四月十四日棚倉町中央公民館で、消防協会東白川支部理事評議員合同会議が開催され、任期満了に伴う役員の改選が行われ、全会一致で鮫川村消防団長蛭田藤留さんが支部長に選ばれました。

新しい役員は次のとおりです。

支部長（鮫川村消防団長）蛭田藤留
副支部長（棚倉町消防団長）鈴木尹
理事（矢祭町消防団長）金沢　孝
〃（塙町消防団長）吉村　昭
監事（棚倉町消防副団長）佐藤弘正
〃（矢祭町消防副団長）佐藤庄平
〃（塙町消防副団長）石井兵蔵
〃（鮫川村消防副団長）青戸敏哉



（＝年金だより＝）

国民年金保険料の納付が困難な方は、申請によつて納付の免除が認められます。

村では、各区に出張して免除申請の受付を行いましたが、なお申請もれになつた方は、早めに直接役場で申請して下さい。

三月俳句作品

西島三叉水
帰るまで涸滝の韻抱き来る
山本　朗史
雪野一気にゆくべく鴉羽つくろう
舟木句仁志
雪払い碑を建てる間の焚火守
高坂　蚯切
春一番種馬令薯いらぶ家みなみ
吉田　羊羊
春近し磐梯の雲安達太良へ
蛭田　七星
なじまざる編機ひたすら指の冷え
円井　モト
煙草床造りて中に雪積る
高坂　恋子
炭負いて梅ヶ枝片手に帰り道
星　貞子
犬連れて日向ぼつこや川堤
菊地　弘嶽
風冷えて梅花匂ひる畦をゆく
国島　五黄
雪の道足すくわれて凧うなる
金沢　斗暁
ストーブに薬缶怒りて査定待つ



三月短歌作品

○　杉山　忠男
雪消えて地肌にひつく泥落葉押し上げて萠ゆ蕗のとうあわれ

○　中川西好幸
わが肩の木屑を妻が払えつゝ今日も議会に招集されぬ

○　蛭田　七星
雪消えて弥生の空の晴れ渡る丘のほのほに木々芽吹きおり

○　円井　モト
新宿のかやぶきの家かぞいつゝ所得申告終やし帰りぬ

○　水野　風斉
厳粛に卒業式が終りたり寒さに耐ゆる代読もなく

○　関根　一好
幸うすき葬列ゆけり浅春の冷き風にほゝをそむけて

日春展に本年も見事入選

郷土出身の中井恒峯画伯

春の美術シーズンを迎え、四月七日～十二日まで銀座松屋で開催された。新人のための日本画展、第七回日春展に、郷土の新進画家中井恒峯画伯は、今年もみごと入選しました。村民こぞつてかげながらお祝とおしみない声援を送りたいものです。